



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2024年4月1日

4月 第266号

奈良・人と自然の会



ハウスの組み立て（ここをこうして・・・難しいなあ）



## Contents

ホームページではカラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	私の旅のトラブー1	6
Monthly Repoならやま	2	Galleryならやま	7
里山の今（景観・パト）	3	行事案内・きのこだより	8
月例研修会（小泉の里）レポ	4	幹事会報告・編集後記	9
私の電化製品たち	5		

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

## 4月から活動日が変わります

第4土曜日およびその他の週の木曜日となります。

4月の活動日: 4日(木)、11日(木)、18日(木)、27日(土)

春爛漫の直前の3月21日は最後の寒波襲来で寒い活動日だったが、ようやく春を迎えて生き物が息づく忙しい時期に向けての準備が始まる。暖かいてもなしてあった豚汁はこの日までで一旦お休み、寒い時期の活動を励ましてくれたことに感謝。これからしばらくは草花の芽吹きにつつまれる季節が活動の励みになる。山野草園ではジンチョウゲ、赤花ユキヤナギが満開、里山林では寒緋桜、クロモジも開花し、その訪れを告げてくれている。今年も酷暑が予想され、束の間かもしれないが最高の季節を楽しみたい。

年度末を迎えて、住環境などが変わってやむを得ず、また体力などに鑑みて切りをつけて退会する人がいる一方、新たに入会いただいた方もいる。退会される方にはこれまでの長い間のご協力に心から感謝し、新たな仲間とは力を合わせて意義のある人生を共にしたいものだ。

### 4月の活動特記事項

4月4日(木): 新入会員歓迎会、ならやま自然観察会

4月11日(木): 協働活動(アダプトプログラム)

### 4月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備(枝葉整理、マキ玉搬出、チップ処理) 楢木置場の整備(本伏せ用架台製作、丸太材加工)、薪棚更新制作 ユート: アカマツの森での雑木間伐と整備
エコファーム	水田の整備(畔と水路) 野菜の定植(葉物野菜、ナス、唐辛子、ピーマン、スイカ、カボチャなど) 種まき(落花生、枝豆など)、サトイモの植え付け準備、サツマイモ畑の準備
景観	整備: 竹林整備(チップ処理)、タケノコ収穫 BC、彩の森の草刈り、ミツバチ巣箱整備 ビオ: 池・水路の景観保全・整備 花: 山野草園草引き・移植
パトロール	1~3コースパトロール、保護植物周辺整備、観察路草刈り、銘板作成設置 自然観察会(4/4)
果樹	山菜の収穫、コンポスト柵の設置と材料投入 果樹の銘板作り、耕耘機替え刃更新

活動日: 第4土曜日およびその他の週の木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止





## Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

### 2月22日(木) 雨の為、延期

ビオトープ班が近大生3名+田中、計4名で田貝の定期調査と水路の調査を実施。

### 2月23日(金) 雨 27名

前日の雨により、振り替えた活動日だったが、朝から雨が降ったので自主活動となった。

### 2月29日(木) 曇り 61名

会長より4月から第4木曜日の活動日を第4土曜日に変更するとの報告および来年度の会費徴収の案内があった。(会報誌に振込み用紙を同封)。

里山Gはシイタケの楳木の運搬、遊びの森の遊具の片付け、薪割り。エコGはビニールハウス床の整備、種まきの準備、大根などの収穫。景観Gは伐採した竹、枯死木のチップ作業。花班は駐車場横の花壇の草引きなど。ビオ班は北水田の土手の補修と整地、東側水路の補修等。パトロールGはさくら山の通路の整備、エントランスの花壇の植え込み、銘板作り。果樹Gは

コンポスト柵の設置、鹿除けフェンス下の防草シート設置、ミカンの植え床作りなど。



### 3月7日(木) 晴 66名+1名(新田講師)

里山Gを中心とした協働活動(シイタケの菌打ち)、果樹Gが新田講師を招いて実りの森およびBC周辺の果樹について実地講習を実施。3月30日のわいわい桜祭り、4月2日の月例研修会の案内があった。

里山Gはシイタケ菌打ちの協働作業、楳木の運搬、部分皆伐地区での薪用コナラの玉切、薪割りなど。エコGは3人が協働作業に参加、エンドウ畑の除草と防草シート張り、野菜畑のチップ入れと耕起、ビニールハウスの組み立て、大根などの収穫。景観Gは協働作業に参加、竹林のチップ作業、彩りの森の伐採した竹の除去、整理。花班はBC周辺、テント周辺の草引き、アジサイの剪定。ビオ班はビオエリアの雑木の整理、竹の伐採、北水田の東側水路の補修。パトロールGは協働作業に参加、さくら山の整備、観察路3コースのパトロール、ミーティング



グ。果樹Gは実地講習を行った後、コンポスト柵の設置、鹿除けフェンス下の防草シート張

り、グミの移植など。

### 3月14日(木) 晴 68名+近大生4名

今日は春らしい日となった。各グループにて倉庫内の器材の定期点検・棚卸。

里山Gは楳木置場の整備、杉の間伐材の搬出、薪割り、薪棚の材料の買出しなど。エコGは水田のチップ入れ、堆肥作り場の整備、ジャガ芋の種の植付け、ビニールハウスの組み立て、分葱などの収穫。景観Gは四季の丘の下の広場の瓦礫や枯死木の回収作業、真竹林でのチップ作業など。花班はフクロ撫子の移植、アジサイ周りの草引き。ビオ班は近大生4名が参加した田貝の定期調査、北水田の東側水路の土手の補修、西池の北側湿地の整備など。パトロールGは観察路1コースのパトロール、さくら山観察路の安全手摺の設置、樹木への銘板の取付け、自然教室に協力して佐保川小学習支援の下見、備品の点検など。果樹Gはミカン苗の植付け、鹿除けフェンス下除草シート敷きなど。

景観グループ

ビオトープの今

高城 光一

ビオトープは春を迎える準備中で至って静かである。雑草も生えずザリガニも冬眠中である。ビオ担当の今の仕事は溝の泥上げや杭打ちなど土木作業がメインとなるが結構きつい。

今回はネタ不足につき新鮮味はないがタガイ(田貝)にまつわる話題をレポートします。タガイはドブガイの一種で大きい方がヌマガイ小さい方をタガイと言うらしい。そのタガイを近大の指導の下で育てているのだが何故タガイかというとニッポンバラタナゴは適度な大きさの2枚貝に産卵するからである。ホタルとカワニナの関係に似ている。ところでタガイの飼育はタナゴの飼育よりもはるかに難しい。タガイは姿に似合わずきれい好きで水質や水温に敏感な上、植物プランクトンをよく食べるため最適な飼育条件が掴めないのだ。ビオのタガイは3つの池で逃げないように箱に入れ背番号を付けて飼育している。定期的に生育具合を確認するのだがなぜか池環境によって差が出ている。もっと言えば同じ西池でも10m近く離れるだけで生育が遅れ、死んだ貝も出ている。この違いは底の土壌の差ではないかと言われているがどうも合点がゆかない。物の本によればプランクトン不足も考えられるらしい。また、タガイの生育環境を整えるためには、タガイを食うザリガニを駆除する必要がある。モンドリを使って駆除しているがこいつが相当の難敵なのだ。

最後にタガイの繁殖について触れておきたい。雄の貝が水中に精子を放出し雌が体内に取り込んで受精し、母貝のえらで成長しやがて孵化し水中に放出される。水中を漂った幼生はヨシノボリやタナゴなどの髭やヒレに付着し、そこに寄生して栄養分を得て成長し、一定の大きさになると寄生から離れて稚貝として生きてゆきます。自然の営みの不思議さを感じますね。



パトロールグループ

がんばれ! さくら山

小島 武雄

さくら山は、昨年12月に守口さんから計画提案があり、協議の上みんなで整備に取りかかりました。2017年の皆伐地に植えられた桜の苗



7年前の銘板

木は7年を経過して、大きく育っています。ただ、コロナ禍を経過し、手の入らないままに笹藪で覆われて残念な姿になっていました。

ここに植えられた15本、6種類の桜をみんなで楽しむ事ができるようにと、1月からの笹藪刈り取りに掛かりました。ぎっしり茂った笹藪を手鎌で刈り取り、立っているのも困難な斜



咲き始めた寒桜

面の手鋏による道作り、急な坂への階段作り、あまりの大変さに途中挫折するかと思いきや、みんなの頑張りはずごいもので、徐々に進んでいきます。丸太の階段、竹柵、安全ロープ手摺張りなど、3月末についに完成しました。中旬からは、寒緋桜(カンヒサクラ)が濃いピンク蕾を膨らませ、次に頂上の富士桜(フジザクラ)がチラホラと咲きはじめ、道作りの応援をして



開花前の大島桜 (7年前の銘板)

くれました。ただし、植樹した桜は天の川、妹背、御車返し、大島桜、どれがどれなのか? 花が咲くまで

わかりません。開花を待って、銘板の取り付けを行う予定です。4月の自然教室時には、このがんばった! 観察路を歩きます。まだ少し桜の開花には、早いかもかもしれませんが、山の上から見える景色はまた違いますよ、皆様おたのしみに。



# 小泉の里を訪ねてレポ

太田 和則

2024年2月26(月)

集合場所：JR大和小泉 AM10:00

意外と知られてない小泉城(大和郡山三城)。

今回は22名の方が小泉の里に興味を抱いていただき参加されました。雨のちらつく中、JR大和小泉西口から出発「片桐城址」の石碑を過ぎ、すぐ先に「小泉城跡」の石碑がありました。これが主郭に当たる所です。ここで小泉城・片桐城の歴史に触れました。古くからこの地を豪族の小泉氏が支配してきました。当時は、「小泉陣屋」と呼ばれ、城と呼ばれる程のスケールもない簡単な館を設け、藩の業務を行なったようです。

戦国の時代もなんとか潜り抜け、生き残った小泉氏、その後筒井氏の家臣となっていたが、国替えとなり、筒井氏と一緒に伊賀上野に移り、1608年「伊賀上野藩筒井騒動」で領地没収となり改易となる。その時小泉一族の歴史は終わりました。代わりに小泉城には大和に着任した豊臣秀長の家臣羽田長門が入封、郡山の支城として小泉氏の館を拡張したといわれています。大阪の陣を境にして片桐貞隆(片桐且元の弟)が小泉藩初代藩主となり、2代目貞昌へと繋ぐわけですが、この大和の小藩が一度の国替もなく明治維新後の廃藩置県(明治4年)まで存続したのは驚きです。2代目藩主貞昌は別名「片桐石州」と呼ばれる茶人で、4代将軍家綱の将軍家指南役になり、徳川家との関係をより深めていくこととなります。平和になった世を茶道という武器で泳ぎ切ったといえます。そして令和の現在も「石州流」茶道の本部「高林庵」として存在し、子孫の方がこの中で生活されています。



高林庵



小泉神社(小泉城の城門)を訪れました。(本殿は重要文化財) 小泉神社の門は小泉城の城門を移設したものです。(現存する唯一の遺構)



次に弘法大師が掘ったとされる「小白水」(湧き水が枯れる事がない)を訪れました。小泉地名の由来と

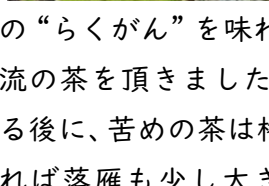
なりました。(小と白+水=小泉)

その後、笹尾古墳の石室の中に入れる貴重な体験を楽しみました。この頃には天気も回復し陽がさしてきて近くの公園でおいしいお弁当をいただきました。

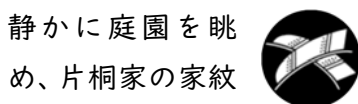


午後、小泉大塚古墳、六道山古墳を訪れ、大和三名園の一つで、2代目藩主片桐貞昌が父貞隆の

菩提寺として建立した「慈光院」を訪ね、茶室として作られた茶席で「侘び寂び」の空間へ。心静かに庭園を眺め、片桐家の家紋



の“らくがん”を味わい、石州流の茶を頂きました。甘さ残る後に、苦めの茶は格別。できれば落雁も少し大きく！お茶も多めに！



最後帰り道の庚申堂を訪れJR小泉駅で散会。寒い中のご参加大変お疲れさまでした。私にとっても貴重な例会でした。これだけの遺産がありながら城として遺構があまりにも少なく、殆どが住宅街になっています。理由は藩主の財政状況が関係していたようです。藩主には多くの家臣があり廃藩後の生活に対応したのでしょうか。杉本さん捕捉説明ありがとうございました。

私の電化製品たち



戸田 博子

私たちの生活に今は電化製品は欠かせないものになっている。私にとりこれらは、一種の生き物になっている。だから、汚れを拭いたり、調子を整えるため健康診断（点検）をしたりして、丁寧とはいわないまでも仲間としてのいたわりを持って接してきた。

それが良かったのか、元々丈夫な人たち（製品）だったのか分からないが、全員（全部）老年期でありながら元気に（稼働）している。

しかし、世の中では困るのだ。トラブルが起こっても修理の部品が全く無くなっている。点検・掃除をしてもらうたびに、「部品交換はできません」と念を押される。

ちなみに年齢は、エアコン 26 年、クリーンヒーター 30 年、洗濯機 24 年、続いてテレビ 16 年、冷蔵庫 13 年で、小物はともかく、今の時代では 5 年、10 年の寿命が業界の常識らしい。

電化製品ではないが、我が家のミシン 125 年、オルガン 125 年、ピアノ 65 年、自動車 29 年とアンティークショップの様だ。

どれも一応元気（？）に動いているが、いつバツタリ倒れるかわからない。



以前は 21 歳の三毛猫もいた。

現に持ち主である私は、去年の 11 月に大動脈解離を起こし道で倒れて死にかけた。医大病院の前だったため、診断が直ぐにつき緊急に手術を受けた。上行大動脈を人工血管に付け換え、

なんとか回復したが、製品だったらその時点で廃棄だっただろう。

また同居の 97 歳の母は私の病気と同時期に大腿骨転子部骨折し、チタンを挿入手術後リハビリ中である。ひと昔前なら寝たきりになったと思う。

人間は古く（老齢）になっても切り捨てられない。新しい電化製品は消費電力も少なく、温室効果ガスも排出が少ない。便利にできているし使うにも親切にできている。「取り替えたなら「温暖化対策になる」と沢山の人から言われる。

でも製品も人間も新しいときは、迷惑をかけないで元気だった。古くなって使い辛くなった製品だったら切り捨てるのは、悲しい。

ただ洗濯機はさすがに動かなくなった。「ご苦労様」とお別れすることになった。

これからも我が家は旧友たち（製品）の機嫌を取り、また自分の身体、母の回復を願いながら生活していこう。

ならやまの活動も 20 年近くになり、会員の方々も歳を重ねた方が多くなってきている。ご自分の身体と相談されながら活動し、ならやまの生物にも優しい心を持って行動されている。

きっとお宅の無生物とも心を通わせて、生活されているのではと想像しているのだが……。





わたしの旅のトラブル-I

## 旅の醍醐味



木村 裕

旅行、とくに海外旅行ではトラブルがつきものです。航空機の遅延、運休、オーバーブッキング、荷物の紛失、盗難や詐欺、病気やケガなどいろいろあります。

美しい風景、すばらしい遺跡に出会うのが旅の本来目的ですが、旅行中に冷や汗をかいたり、真っ青になったりした事件や事故は旅以上によい思い出になっていませんか。

皆さん！ 旅のトラベルではなくトラブルを紹介してください。

私の旅では下痢はつきものです。何分にもトイレにできていないもので。青い顔をしてトイレ、トイレと毎度騒いでいます。

### 面白いトイレ表示



一番ひどい下痢は、古い話ですがタイでの一人旅での出来事

です。翌朝の飛行機で帰国する予定の前の晩、突然腹が痛くなり、嘔吐と下痢が始まりました。腹の痛みは半端ではなく七転八倒で、急遽医師の往診をホテル側に頼んだところ、日本へ電話しろと言われ、その後やっと医者を呼んでくれました。何のための電話かは不明、本人確認？ 支払いの心配？ 薬をもらったがしばらくの間うなり続け。往診してくれた医者が、処置方法、領収書などの書類をつくってくれたので、帰国後の保険金支払いはスムーズに完了。保険会社いわく、「大変でしたね」と。帰国便ではトイレの番人になっていました。夕飯に食べた焼き飯の具の貝に当たったのではないかと思われま

す。チリでの旅行の折に起こった事件です。ホテルから空港まで約100km、乗り合いタクシーでアタカマ砂漠（世界一乾燥した砂漠）を移動していたところ、空港の滑走路が見え始めた所で突然エンコ。お客は我々2人の他、オランダ人夫妻、イタリア人家族（年配者と若い甥と姪）の7人、運よく定期バスが通りかかり、その運転手に空港の関係者に救援依頼を頼んだが、迎いの車はすぐにはやってこない。運転手は今朝出かけに接触事故を起こしたのが原因かなと言いながら何もしない。みんな文句も言わず、何処から来たのか、どのくらい旅をしているのかなど片言の会話を続けながらじっと待ち続け。時間はドンドン過ぎてゆき、やがて滑走路に我々の乗る飛行機が着陸するのが見え、しばらくするとその飛行機は舞い上がって去っていった。イタリア人の若い女性（姪）が「オウーイ、待ってくれ！」と冗談をとばしていた。チリ人、イタリア人、オランダ人、日本人の集まりであったが、片言のスペイン語で会話が続いたのは驚きでした。また、誰一人運転手にかみつかず悠然とかまえていたことも驚きでした。

ここからは後編です。飛行機が去って10分後、救援の車がやってきました。空港に着くやいなや、若い女性がやってきて「航空会社と交渉したので、あなた方の予約した航空券は無効になっていない」と言い、それぞれの行き先を訪ね、善後策を検討し始めた。私たちはまず隣町に飛び、そこでイキケ行きの便に乗り換える予定になっていた。女性はすぐさま我々をチェックインカウンターへ連れてゆき、隣町（次の乗り換え地点）からの搭乗券を発券させた。なんで?? すぐさま今乗ってきた車に乗せられ、乗り換え予定の隣町の空港まで砂漠の中を全速力で飛行機を追いかけること3時間余。乗り換え予定の便の出発30分前に到着し、無事に旅を続けることができました。機転の利いた対応には感謝と驚きでいっぱいでした。



# Gallery ならやま



スケッチ 「松花堂庭園のツバキ・覆輪侘助」 梨本 哲



写真 「あやめ池で拾った早春」  
千載 輝重

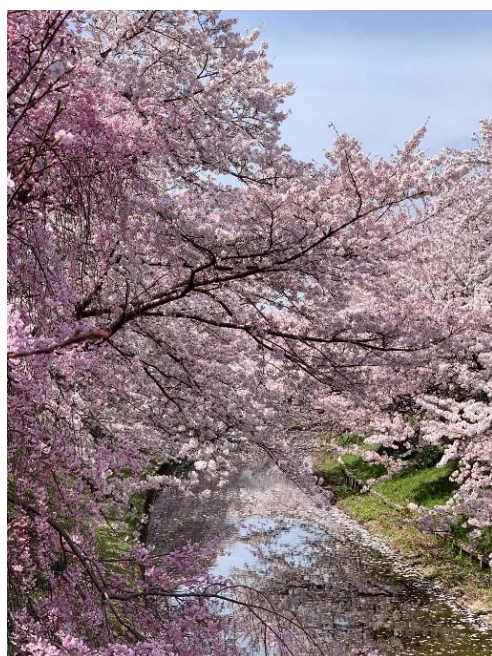


写真 「春爛漫・佐保川」 國方 まり子



陶芸 「ネコ」 小島 武雄

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。



# 行事案内



## 春の自然観察会

### ならやまの自然観察路を 一緒に歩きましょう

自然教室担当 小島 武雄

4月度自然教室 4月4日(木) 午後1時頃  
から1時半程

スタート：ならやまBCから、距離別に3グ  
ループに分かれて出発します。

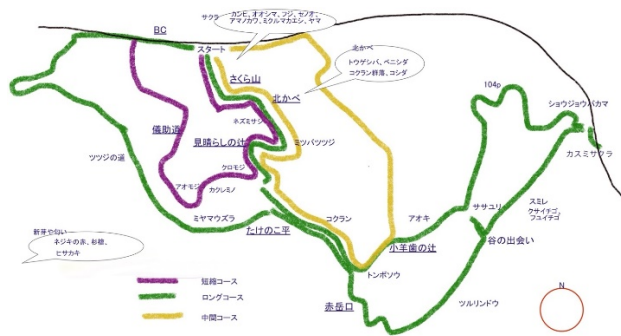
春です!! パトロールGがいつも整備し  
ている、自然観察路を歩きます。

BCから、さくら山、きたかべ、を通り少し  
険しい3コースを登ります。

春の息吹に満ち溢れた、森に元気をもらい  
ましょう。

赤い実、白い花、若芽、普段気づかない自  
然の中を一緒に楽しみましょう。

今回もパトロールGに協力していただきま  
す。お楽しみに!



ならやま自然観察会  
4月4日



## きのこだよ!

### 春きのこの王様 トガリアミガサタケ (尖り編笠茸)



高間 祥子

フランスではモリーユと呼ばれ、高級食材と  
して珍重されているきのこです。春早くサクラ  
の花が咲く直前から、林内地上、特にサクラ、  
イチヨウなどの樹下に多く発生します。

高さ7cm~15cmで、帯褐色~オリーブ褐色、  
縦長の円錐形です。この尖ったあみあみの部分、  
実は「カサ」ではありません。一般的にきのこ  
のカサの裏には「ヒダ」と呼ばれる胞子を作り  
出す場所があるのですが、そのヒダと似た働き  
をする部位が表面に表れている状態です。子孫  
を残すための大切な胞子をつくる場所だからこ  
そ、沢山のくぼみがあるんですね。

少量の有毒成分を含むため、生食は厳禁。加  
熱は十分に行い、湯でこぼしをした方が安心で  
す。クリームやバターなどとの相性が非常に良  
いと言われています。パスタに入れたりリゾッ  
トに入れたり、シチューも良いですね。洋食の  
印象が強いきのこですが、クセがないので、和  
食にも合うと思います。傷みやすく日持ちが悪  
いため、市販されているのは乾燥したものが多  
いようです。フレンチのソースなどでも乾燥品  
を使いますが、乾燥することで香りが強くなり、  
より旨味が増します。

ブラックモリーユと呼ばれるトガリアミガ  
サタケに続いて、サクラが散るころには、イエ  
ローモリーユと呼ばれるアミガサタケが、下草  
にまじって生えていることがあります。こちら  
は首都圏で人気があり、探す人が多くて、競争  
率が高いそうです。

また、アミガサタケの仲間には猛毒のシャグ  
マアミガサタケもあり、注意が必要です。

**2024年3月度 幹事会報告**

開催日：2月27日

I. はじめに  
シイタケイベントを振り返って  
植菌場が少し狭かったのと、穴開けが追い付かず待ち時間が多かった。植樹などそのほかは人数も無理なく比較的スムーズであった。

II. 会計、総務部より

- ・ 会員動向：142名（家族15名）変化なし  
シニアより入会予定 1名
- ・ 会計：収支報告あり

III. 活動・行事関係

- ・ 広く会員を求めするために4月より毎月第4土曜日をならやま活動日とする（その週の木曜日の活動はなし 4/25（木）⇒4/27（土））
- ・ 5/18（土）総会

\*ならやまプロジェクト活動

- ・ 3/7 協働活動 シイタケ菌打ち
- ・ 4/4 新入会員歓迎会、午後ならやま観察会
- ・ 活動中の安全について再度確認のこと
- ・ 3/30 わいわい桜祭り 雨天実施のイベントだが会のルール通り雨天時は不参加とする
- ・ 7月の 山の日・川の日イベントは酷暑も考慮して内容を再検討の上、次回幹事会で決定。

IV. 企画、助成金事業案件

- ・ 事業活動報告書取りまとめ中

V 特定議題

- ・ 予算編成について：各Gより提出された予算に基づき原案提示。引き続き経費削減については努力する

VI. 広報関係

- ・ ネイチャーなら4月号編成内容説明

VII. 報告・連絡事項、その他

- ・ 月例研修会：年間活動計画案、担当者確認
- ・ 自然教室：年間活動予定表・学習支援の確認
- ・ 会の案内冊子を更新した

以上

次回：3月23日（土）中部公民館 14:00～



毎月の行事を伝える会報誌の作業をしているせいか、一年がより早く過ぎる気がする。同じように時間が流れ、季節は巡ってくるが、瞬間は同じではない。でも穏やかに過ごしている時は、このまま変わらずに時間が止まっていたほしいと思う。変化や進歩も大切だけれど、なぜか変わらない事に安心感があるのだ。

さて、ことし4月よりならやまの活動に変化がある。長年「平日木曜日」が活動日だったが、平日は来られない人たちにも参加を促そうと、月1回だが土曜日にも活動することになった。

より幅広い年齢層に来てもらいたい取り組みなのだ。大人だけではなく、中高生のような若い人たちにも「ちょっと覗いてみようかな」という呼び水になればと期待しているのだが…。

会員のみなさまも、お知り合いや身近な家族にも声をかけていただきたいと思っている。



\*\*\*\*\*

**5月ならやま活動&行事予告**

- \*ならやま活動 5/5 協働活動日
- 5/18 総会

- \*自.教：佐保川小自然観察学習支援
- 大阪側の生駒山麓自然観察会 5/13

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)

編集委員：青木（幸）・青木（芳）・尾崎千載・田中（善）・戸田・豊田

表紙写真：エコGの会員が、ビニールハウスの組み立て説明書を見ながら検討しています。